

平成28年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



海老名市立杉本小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成28年4月19日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「書くこと」については、各領域の中でもよい結果でした。日頃から、「書くこと」を各学年に応じて指導している結果であると思われます。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことができます。
- 目的や意図に応じて書く事柄を整理できています。
- 目的に応じて、図と表と関係づけて読むことができます。
- 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めることができます。

《努力を要する所》

- 平仮名で表記されたものをローマ字で書くことに課題があります。
- ローマ字で表記されたものを正しく読むことに課題があります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- グラフを基に分かったことを的確に書くことができます。
- 目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書くことができます。
- 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことができます。
- 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫することができます。

《努力を要する所》

- 記述式の問題は努力を要します。特に内容をまとめて書く問題では、無解答率も高いです。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに課題があります。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題があります。

これまでの取組から

- 水曜日と金曜日は朝読書に取り組んでいます。今後も継続して時間を確保したり、学年に応じて内容を見直したりします。

今後の具体的な取組について

- すべての学習の基礎となる「読む・書く・話す」については、繰り返す行うことで定着を図ります。
- 自分の考えを話す、書くことについては苦手意識を持っています。教科全般において、考え方を身につけさせるためにも、自分の考えを書いたり、話し合ったりする活動を取り入れるなど、日常の指導を工夫していきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

【数量や図形についての技能】

- 繰り下がりのあるひき算の計算ができています。
- 乗数が整数の分数のかけ算では、正しく計算、約分ができています。

【数量や図形についての知識・理解】

- わり算における計算の確かめの方法を理解しています。
- 不等号を理解しています。
- 示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができています。

《努力を要する所》

【数量や図形についての知識・理解】

- 割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解することに課題があります。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

【数学的な考え方】

- 示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることができています。
- 示された事柄について、二つの表を基に読み取ることができない事柄を特定できています。

【数量や図形についての知識・理解】

- 正方形に内接する円の半径について理解できています。

《努力を要する所》

- 考え方を記述する問題は努力を要します。また、無解答率も高いです。

【数学的な考え方】

- 示されたわり算の式を並べてできた形と関連づけ、角の大きさを基に式の意味の説明を記述することに課題があります。
- 図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することに課題があります。

これまでの取組から

- 校内研究では、算数の授業を通し、「互いに伝え合い考えを高め合う子の育成」をめざして研究に取り組んでいます。

今後の具体的な取組について

- 「数学的な考え方」においては知識・技能の定着の上に【図や式や言葉で理由を説明できる】【数値を根拠として説明できる】などの活用する力を高められるように指導の工夫・改善を図ります。
- 「基本的な数量や図形についての知識・技能」は、ドリル学習等を活用し、今後も繰り返すことにより定着を図ります。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 97%の児童が家で宿題に取り組んでいます。
- 90%の児童が、国語・算数の勉強を大切だと思っています。
- 多くの児童が好んで読書をします。
- 算数の授業では、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いています。

《課題と思われる所》

- 宿題には多くの児童が取り組んでいますが、進んで予習や復習に取り組んでいる児童はあまりいません。
- 国語B,算数Bの活用問題では、多くの児童が解答に時間を要します。
- 国語と算数の勉強を大切だと思っているもののあまり好きではありません。

生活について

《よかった所》

- 94%の児童が毎朝朝食を食べています。
- 活動後、達成感や充実感を味わう経験をした児童が90%以上います。
- 友だちと話し合うとき、97%の児童が友だちの話や意見を聞くことができています。
- 多くの児童が、将来の夢や目標を持って生活しています。
- 90%以上の児童が、テレビやインターネットでニュースを見ています。

《課題と思われる所》

- 半分以上の児童が人前で自分の考えを発表することを苦手と感じています。
- 読書は好きですが、学校図書館や地域の図書館はあまり利用していません。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事への関心が薄いです。
- テレビやインターネットでニュースを見ますが、新聞はあまり読んでいません。

これまでの取組から

- 図書支援員や図書ボランティアを活用しています。蔵書を見直したり、図書室の環境を整えたりして、学校図書館の利用が増えるようにしています。
- 各学年に応じて、家庭学習の方法や内容を工夫しています。さらに、予復習の大切さについても指導していきます。

今後の具体的な取組について

- 児童が学校生活を楽しいと感じ、生き生きと活動できるように工夫していきます。
- 主に、国語や総合的な学習の時間などを中心に、新聞を用いた授業を取り入れたり、新聞の良さについて考える時間を設けたりして、新聞に親しむ機会を設定します。
- 分からないことをすぐに聞いたり、友だちの前で堂々と意見を述べたりできる雰囲気の学級作りに努めます。



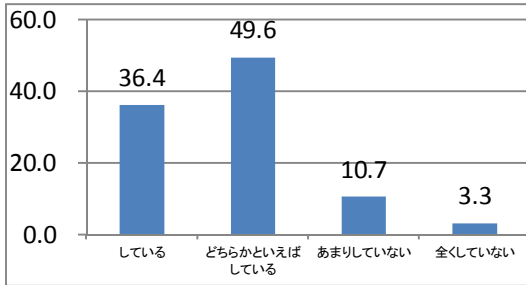
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい項目」をまとめました。ご家庭で振り返り、できることから、ぜひ、始めてみてください。

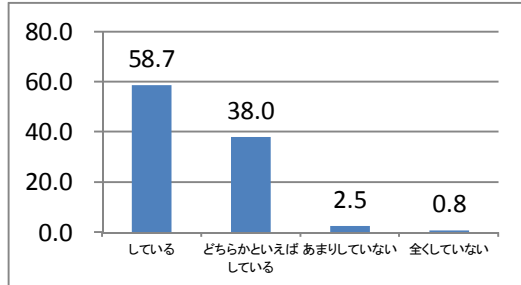
1 規則正しい生活習慣を大切にしましょう。

規則正しく生活していると答えている割合が多いですが、朝、眠そうにしている子も増えてきています。夜の就寝時刻は遅くなってきていませんか。早寝早起きを心がけ、家庭内でも朝、元気にあいさつをしましょう。

毎日、同じくらいの時間に寝ていますか。



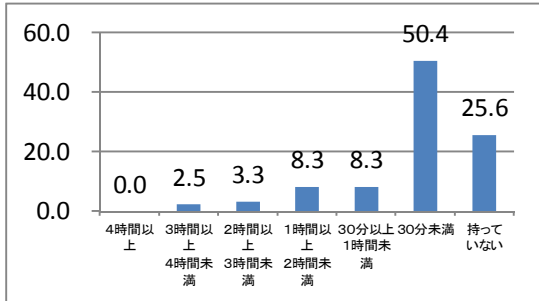
毎日、同じくらいの時間に起きていますか。



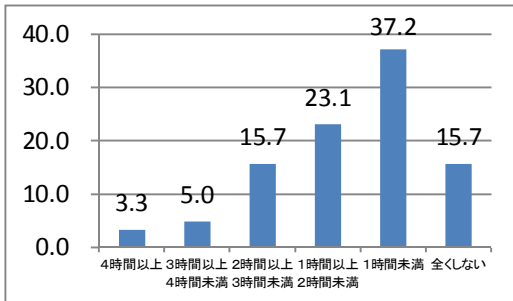
2 ルールを決めて使用しましょう。

調査した春に比べて、携帯電話やゲームの使用時間が長くなっていませんか。使用時間を決めて使わないとなかなかやめられないものです。インターネット(ゲーム、ソーシャルネットワークサービス、メールなど)でのトラブルにも気をつけましょう。定期的にご家庭で話し合い、ルールを見直しましょう。

普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。



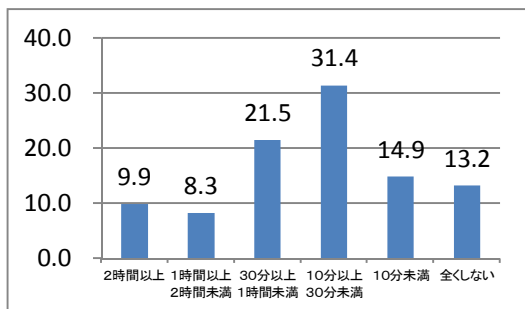
普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。



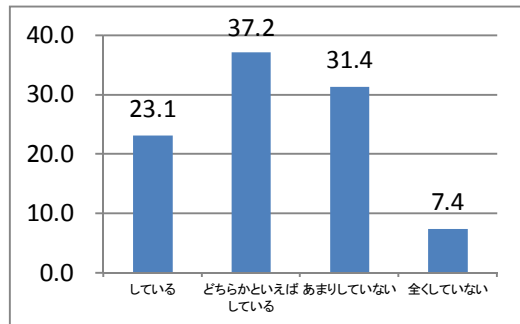
3 計画的に家庭学習に取り組みましょう。

読書を通して、他者の考え、意見、事実を知ることができます。読書の習慣化を図りましょう。また、自学自習の力をつけるために、計画を立てて実践する力をつけていきましょう。

学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか。



家で、計画を立てて勉強をしていますか。





平成28年11月